

●表紙イラスト
葉 祥明

表紙のこぼ
「春を待ちわびる心」

少年時代、私は秋が好きでした。涼しく爽やかな秋が、うれしくて仕方がありませんでした。大学時代になると大いに夏をエンジョイし、冬もまた、スキーを楽しんだりして、この二つの季節を好んだものでした。少年時代、青年時代を通じて、一度も春を意識したことがなかったのに、数年前から、一年の内最も春を心待ちするようになりました。寒い冬の後の暖かな陽光と、自分の中の、失なわれてしまった「若さ」へのノスタルジーがそうさせたのでしょうか……。

●シーン'90撮影のこぼ
六殿神社楼門(富合町)

境内では、正月を迎える準備が忙しく行なわれていました。そんな中、均整のとれた朱塗りの楼門が一際目立ちました。

編集後記

■ 県では1月からコピー用紙に再生紙を使い、使用量も5%削減することになりました。このことにより、丸太で2,260本、2.3ヘクタールの森林面積が守れると考えられています。環境問題が大きくクローズアップされてきている昨今、このような動きは他の団体や、企業でも広がっているようです。そして何よりも肝心なのは私たち一人ひとりの意識と実行だろうと、そう思います。

■ KAZEの表紙を描いていただいている葉祥明さんの専用ギャラリーが熊本市の手取神社参道にオープンしました。葉さんのメル本画に囲まれていると、街中の喧騒をしばし忘れてしまいそうです。それに、街中の横丁が素敵なファッション・ストリートに変身しているのもまた魅力です。

「くまもの風」愛読者募集

本誌の年間購読を希望される方は、1年分の郵送料1,500円(250円×6回)分の切手を同封のうえ、下記へお申し込み下さい。(随時受付可)

〒862 熊本市水前寺6丁目18番1号
熊本県広報課「くまもの風」係
▲096-382-9780

CONTENTS

1-2	風のコンパスーグリーン・イシューー
3-6	特集ーがんばるくまもと・'90年代を目指してー
7-8	びーぶるーピッコロクッチーナー
9-10	ステップアップ KUMAMOTOーくまもとの神業ー
11-12	ふるさと紀行ー芦北町ー
13-14	シーン'90
15-16	ママさんレポートー高齢者の在宅福祉事業ー
17-18	30minutesーキングウイリアム・ホルトさんー
19-20	ウォッチング元氣図鑑ー宇城 VS 熊本ー
21-22	HISTORY OF 熊本人ー宇良田タダ子ー
23-24	INFORMATION
25-26	街角便り他



姜信子の韓国通信

キムジャン ヘツソヨ?

韓国のスーパーでどの野菜よりも格段に広い売り場面積を占領している野菜といえば、何といっても白菜だ。もちろん、韓国の食卓に欠かせないキムチのためである。

その白菜がトラックに満載されて町を行き来し、スーパーでも、市場でも、あるいは、団地の前の露天の八百屋でも山のように積み始めたら、それが、韓国の冬の到来を告げる風景だ。キムジャン(冬期貯蔵用キムチ)を漬ける時期になったのだ。



キムジャンの風景

なんでも、気温が10度前後の頃、12月上旬に、一番おいしいキムジャンを漬けるのだそう。かつては真冬には白菜が手に入らなかったからという歴史的理由もある。今日の理由としては、真冬には白菜の値が上がるということもある。その前に、ほとんどの家の主婦は、春まで食べられるほどのキムチを漬けるというわけだ。家族4人なら白菜30個ほど。大人が多い家では100個漬けることもある。

まず、塩漬けした白菜に、イワシの塩辛のエキスに溶いた唐辛子粉、にんにく、しょうが、ニラを混ぜていく。玉葱や、大根やなしを入れる家もある。ここまでは、ふだん漬けるキムチと同じ。それに、キムジャンとなると、いかの塩辛や、生がきや、魚が入ることもある。これは高級な部類だ。

これだけ漬けるとなると、当然、家中の女が総出の朝から一日がかりの大仕事になる。沢山漬ける家では近所の主婦達の応援隊もやって来る。だから、この時期の主婦達の間では、「キムジャン ヘツソヨ?(キムジャン漬けた?)」が挨拶になるほどだ。

我が家の場合には10個くらい漬ければいいだろうというのが、近所の主婦達の一致した意見だった。このくらいの量だと、実のところ漬けようか漬けまいか迷ってしまう。そして、韓国人でもそういう風を感じる人々が増えてきているらしい。だいたいがデパートには既製品キムチの常設コーナーがあるし、キムジャンともなれば、材料は自分で選び、それを業者が漬けてくれるという商品も登場している。それが結構人気がある。都市ではマンションに住む核家族も次第に増えていること、韓国社会の最近の発展が人々をより忙しくしていることがその大きな原因だ。

さて、それで、結局、私はどうしたかというと、全く何もしなかった。キムジャンをした近所の主婦や友人が、少しずつおすそわけしてくれたためだ。それが合わせて白菜10個分。残念なこと(?)、自分で漬ける必要がなくなってしまったのである。



忠清南道にある「独立記念館」

姜信子さん

フリーライター。ノンフィクション「ごく普通の在日韓国人」で朝日ジャーナル賞受賞。熊本と韓国の交流推進のため、韓国・忠清南道庁に県職員として初めて派遣された夫とともに昨年5月下旬に渡韓。



大田市内の市場にて

「キムジャン」は「ヘツソヨ」?



街角便り

「人生をエンジョイ/ホンジュラス便」

中村 博典 (33才/ホンジュラス・青年海外協力隊)



私の住んでいる中米ホンジュラス共和国の街角便り。ここホンジュラスは、クリスマス前が年間を通じ一番過ごしやすい季節です。店にはクリスマスツリーが飾られ街角やラジオからはクリスマスソングが流れてきますが、雪もなく寒さもなく師走の慌ただしさもないので、今ひとつピンときません。この時期、クリスマスと元日ははさんで、ほとんどの人が3週間位の休みを取ります。休みといえば人々は友達と街の中心にある公園で過ごしたり、映画を見たり。それと、日本の草野球に匹敵するサッカー。至る所でボールを蹴り合っています。ホンジュラスの人々は「コーラとリズムカルな音楽があれば十分だ」というように、とても人生をエンジョイしているように思えます。

「昔懐かしい味、ひともじのぐるぐる」

西本 朱美 (31才/千町町)

「三月、ひともじのぐるぐるの季節となりました。兵隊さん……」これは、義父が戦争で中国大陸にいた時もらった慰問文の書き出しだそうです。会ったこともない女学生からの手紙に、はるか遠い熊本の空や、父母の顔を思い浮かべたのでしょうか。今年はずうの畑のひともじがよくできたので、私も、このぐるぐるというのを作ってみたくて……。酢みそをかけて……。おいしい!これから、我が家の食卓にも、こんなふる里の味、おかあさんの味のするものをのせるよう心がけ、子供たちにも伝えていかなければならないと思いました。

「銀杏並木のコンサート」

城 侑子 (42才/熊本市)

西の方で美術館コンサートがあれば、4才の末っ子と行き、東にアフターファイブコンサートがあれば、そのネーミングの良さに感心しつつ高校生の娘も加わり、3人で初めて夏に駆けつけたのに残念ながら雨でした。そして2度目、11月の5時半は素敵なおトワイライトタイムで、ライトアップされたイチョウを見上げ、もう雰囲気は最高。かわいい音色のピッコロと初めて見るおぼけフルートの絶妙のコントラストが印象的でした。ただ司会の方が「コーヒーでも飲んで暖まりながら……」の言葉に我が4才児は「あったまりたいな、あったまろうよ!」の連呼で、もう一つ寛いで聞く事ができなかったのが心残りでしたが、心まであったまったコンサートに満足して帰りました。

「味噌・醤油の守り神、味噌天神」

山内 彰雄 (43才/熊本市・醤油みそ組合青年部)

味噌天神をご存知ですか。熊本市大江にある天神さまです。その昔、食膳には必ず味噌汁が供されていたのに、味噌が酸っぱくなり困ってしまい、この天神に願をかけたところおいしい味噌に変わったことから、全国で唯一の味噌・醤油の守り神として「味噌天神」と呼ばれるようになったと言われます。毎年、10月25日には「味噌天神宮大祭」が行われ、私達、醤油みそ組合も味噌汁の試食や味噌の配付などを行い、回を重ねる毎に参拝者が増えてきました。皆さんも今年は是非お越しください。私達も天神さまのお膝元の名に恥じないよう、おいしい味噌作りに頑張りたいと思います。



みなさんの身近な情報(出来事・季節の変化・風景・感想など)を200~400字程度にまとめてお送りください。(採用された方には「風テレホンカード」をプレゼント)

●あて先
〒862 熊本市水前寺6丁目18-1
熊本県広報課「くまもの風」係
☎(096)382-9780

たくさんのお便りをお待ちしています。

